

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 152 ※記入不要	提案機関名 神奈川県花き園芸組合連合会
要望問題 露地ケイトウの連作障害	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 <ul style="list-style-type: none"> 一般切花のケイトウは、コギクに次いで主要品目であり、横浜、川崎、秦野を中心に県下全域で栽培されている。 コギク→ケイトウの連作を行ってきたが、最近、ケイトウに連作障害がみられ、収量が落ち込んでいる。 発芽直後の立ち枯れ、生育不良による品質低下、収量減が目立ち、対策に苦勞しているが的確な方法が見つかっていない。 病害、土壌対策など総合的な対策が望まれる。 	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
研究対応区分	①研究所対応 ②委託研究 ③共同研究 ④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（②根府川試験場 ③三浦試験場 ④津久井試験場） ⑤畜産研究所 ⑥水産総合研究所（⑦内水面試験場 ⑧相模湾試験場） ⑨自然環境保全センター

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部 署	生産技術部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名	(①、②、④の場合)
<p>対応の内容等 連作障害の原因は①土壌の化学性、物理性 ②病害虫、③生育阻害物質が考えられます。7月上旬に普及センター職員と一緒に、発芽直後の立ち枯れ症状がある生産者の圃場を巡回し、苗と土壌を採取し調査しています。一部の苗の立ち枯れ症状からは <i>Fusarium latertium</i> が検出されています。また類似した症状にケイトウの <i>Rhizoctonia sorani</i> による被害があります。神奈川県園芸試験場報告にケイトウの <i>Rhizoctonia sorani</i> による報告がありますが、防除は比較的容易であるようです。土壌化学性に関しては現在調査中です。聞き取り調査から土壌消毒の徹底、土の分析（普及センター）を行えば解決できる可能性もありますが、そうでなければ当所関係部と連携をとりながら試験研究設定へ向け取り組みます。現地調査にご協力をお願い致します。</p> <p>(参考文献) <i>Rhizoctonia sorani</i> によるケイトウの茎腐病（新称） 神奈川県園芸試験場研究報告 第34号：33～37(1987)</p>	
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考	